

ヒグマに注意

この特集の問い合わせ先 南区総務企画課地域安全担当 ☎582-4706
環境局みどりの推進課熊対策調整担当 ☎211-2522

日本最大の陸上動物「ヒグマ」の生態

体長

オス：約2.0m、メス：約1.5m

体重

オス：150~400kg、メス：100~200kg

活動範囲

オス：数百km²、メス：数十km²

特徴

- ・嗅覚や聴覚に優れている。
- ・人目を避け、山林ややぶに隠れて行動する。
- ・若いヒグマは好奇心旺盛で、活動範囲も広い。
- ・子連れの母グマを除き、基本的に単独で行動する。
- ・子連れの母グマは、子グマを守ろうとして攻撃することがある。

生態

- ・3月下旬~4月下旬頃に冬眠から覚め、活動を始める。
- ・6~7月の繁殖期には、発情したメスを探すためオスの活動範囲が広がる。
- ・秋になると次の冬眠に備えて体脂肪を蓄積するため、大量の食物を摂取する。
- ・11月下旬~12月中旬頃、冬眠に入る。

習性

- ・学習能力が高い。
- ・餌などに対する執着心が強い。

子グマを見かけたら、
母グマに注意!



ヒグマと遭遇しないために

ヒグマの出没情報を収集する

山に入る前には、新聞やテレビ、札幌市のホームページなどでヒグマの出没情報を収集する。

音を出しながら歩く

山に単独で入らない。ヒグマは自然界にない音を警戒するため話しながら歩く、鈴をつけるなどが有効。

薄暗いときには行動しない

ヒグマは夕暮れから早朝にかけて活動することが多い。暗いときはヒグマに気付くのが遅れがちになる。

痕跡を発見したらすぐに引き返す

ヒグマの足跡やフン、草が食いちぎられた跡などを発見した場合はすぐに引き返す。

ヒグマを市街地に引き寄せない

生ごみを野外に放置したり、夜間にゴミステーションへごみを出すのはやめましょう。ヒグマが、生ごみなど人間の食べ物の味を覚えると、それを目的に繰り返し出没するようになります。

ヒグマは、食べ物や餌場に執着する特性があります。また執着することで、人目を気にせず行動したり、攻撃的になるため危険です。

区内で起きた被害の例



生ごみやコンポストがヒグマを引き寄せる場合があります

